



緩和医療における チームワーク

前回、在宅看取り率について取り上げましたが、たまたま自分の愛読書の文藝春秋にも同じようなテーマが書かれてい

て、今話題性のあるテーマだと改めて思いました。緩和医療における担当可能な治療（モルヒネの持続皮下注射、鎮静薬の持続皮下注射、皮下輸液、中心静脈栄養ポート管理、輸血、胸水腹水穿刺、経口麻薬の投与など）について自信を持って行える医療機関は10-26%という低い水準だといわれています。この現実には、アシスタントのヒロコさんも驚いていました。

そこで改めて考えると、当院の在宅看取り率の高さはこれらの医療行為が行えているからだと推測されました。当院で

特に注目すべき項目に

- ・日本循環器学会専門医
- ・日本内科学会認定医
- ・認知症専門医
- ・認知症サポート医



松原 清二 医師

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医

在宅療養で全身の筋力の落ちる難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）では在宅医療は必須となります。その患者さんには在宅医療がどう関わっているのか、また病気の進行に伴うご本人やご家族の気持ちについて動画

[まつばらホームクリニック]
☎ 042-439-1250
西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)

■電話対応: 午前9:00~午後6:00
■定休日: 土日(祝日は診療)
■訪問地域: 西東京市、東久留米、新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック 検索

地域に——生ずる温かい

